

(6) い草やお茶づくり

① 冬の水田を使ったい草づくり

岡山県はい草は、草たけがよくそろっており、だん力があって色もあせにくいなど、品質がすぐれています。



い草のかり取り作業

昭和42年ごろまでは、全国一の生産量をほこっていましたが、冬の水田での植えつけや炎天下でのかり取り作業などのきびしい労働のため、さくつけめんせき作付面積は年々へり、今ではごくわずかになりました。

しかし、古くから続くい草の加工は今も有名で、岡山の「花ごぎ」は高級品として愛されています。い草は、倉敷市などで栽培されています。

② 山間の傾斜地を利用した畑作

ゆのごう湯郷温泉のあるみまさか美作市は古くからのお茶の産地としても有名です。きり霧が多く、水はけの良い傾斜地で栽培されたお茶は、品質が良いのです。お茶は1年間に3回収かくされます。4月から5月には、しも霜の害を防ぐために大型のせん風機を回して、霜がおりないようにしています。真庭市、新見市、高梁市などでもお茶が栽培されています。



機械によるお茶の収かく作業

新見市、高梁市などのきびこうげん吉備高原の畑に、三角の白いぼうしの行列がならんでいます。これは葉たばこの苗を寒さから守っているのです。岡山の葉たばこの品質はよく、古くからの産地です。



葉たばこの苗を寒さから守る三角の白いぼうし